

あかやま



第 **316** 号
学校だより377号

令和3年度 卒業式

令和4年3月1日(火)に、全日制普通科第73期、理数科第52期の卒業証書授与式が行われました。昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業生・保護者・教職員だけの卒業式でした。卒業生の堂々とした姿がとても印象的でした。卒業生のみなさんの活躍を、在校生・教職員一同期待しております。

校長式辞

先月末の厳しい寒波も過ぎ、寒さも少しずつやわらぎ、この赤山の地にも春の訪れを感じられるこの佳き日に、令和3年度島根県立松江北高等学校普通科第七十三回・理数科第五十二回卒業証書授与式を挙行し、二百七十四名の皆さんに卒業証書をお渡しすることができることを嬉しく思います。本当におめでとうございます。

本来であれば、在校生及び来賓の方々と共に卒業生の皆さんをお送りすべきですが、コロナ禍の状況下で昨年・一昨年と同様にそれができないことが大変残念です。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。長きにわたり愛情を持ってお子様をご指導され、この日を迎えられたことに、高いところからではございますが、あらためて敬意を表しお祝い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、今みなさんの脳裏には北高での三年間のさまざまな思い出が駆け巡っていることでしょうか。特に昨年・一昨年の二年間は、コロナ禍という状況の中で、目標や励みとしていたものが失われた喪失感や、自らの力ではどうしようもない状況への無力感など、苦しくて辛いことの多い時だったと思います。一方、今まで当たり前に来てきた日常のさまざまなことや、それらを当たり前に行えることが、実はとてもかけがえのないものであったことに気付かされた時でもありました。当たりのことが当たり前に行えることの幸せを今一度認識すべき時なのだと感じたのは、私だけではなかったと思います。

この三年間、折に触れ君たちにいろいろな話をしてきました。入学式では、「挨拶・服装・清掃」という当たり前のことを、徹底し、心を込めて一生懸命に行う「凡事徹底」と、「失敗は悪いことではない、失敗を恐れ」ないで、努力し続けることの大切さを話しました。

努力して成功すれば、自信となる
努力して失敗すれば、経験となる
努力しないで成功すれば、天狗になる
努力しないで失敗すれば、あきらめる

この言葉を覚えてくれていると嬉しいです。

二年生の時には、二学期の終業式で、プロゴルファー渋野日向子選手が全米女子オープンで惜しくも4位になった時に語った「悔しいが悔いはない」という話をしました。この言葉は、一見すると矛盾しているように思いますが、これは「負けが決まった瞬間は悔しいが、それを後に引きずらず、これから自分がすべきことを理解し、この負けを前向きに捉えている」と説明しました。また、自分の現状を客観的に正しく把握する「メタ認知」や、思うようにことが進まない中でも決して悲観的にならず、自己肯定感を失わない「レジリエンス」の大切さにも言及しました。

今日北高を巣立っていく皆さんに、この卒業式でどんな花向けの言葉を送ろうか、と考えました。そして、それを思いついたのは、先日閉幕した北京オリンピックを見ていた時でした。昨年東京オリンピックと同様に日本選手たちの躍動する姿に、みなさんも感動したことと思います。今大会で日本勢は金メダル3個を含む過去最多の18個のメダルを獲得しました。その中でも特に印象に残っているのが、カーリングの日本女子チーム「ロコ・ソラーレ」の戦いぶりです。どんなに苦しい状況でも



笑顔を絶やさず、失敗をしても決して落ち込まず、互いに声を掛けあって励まし合い、「ステイ・ポジティブ」の姿勢を貫いていました。そして何よりも、カーリングという競技を心の底から楽しんでいる姿に感銘を受けました。このような彼女たちの姿を見ていて、私は中国の思想家・孔子のある言葉を思い出しました。それは、

「これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。」という言葉です。

口語訳すると、知っているということは、好むということには及ばない。好むということは、楽しむことにはさらに及ばない、でしょうか。学問や仕事、もちろんスポーツにおいても、知っていることは色々利点は多いでしょう。さらに、好きなことを仕事にすれば、仕事自体が興味の対象となるのですから、それに勝つことはありません。しかし、知っていることも、好きなことも理性に裏付けられた感情の一つである点を考えると、楽しむことはさらにその上の境地とも言える状態なのです。どのようなことでも、心から楽しむことのできる対象と向き合うことは、最高のことと言えるのではないかと孔子は言っているのです。

また、昨年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公であった、「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一も、「心は常に楽しんで」という言葉で、「仕事で成果を上げるためには、仕事を楽しまなければならない」と語っています。渋沢は、孔子の「論語」を、実業を行う上での規範としていたので、当然かもしれませんが。

この先、みなさんも職業選択、そして就職、という時期を迎えることと思います。その時、さまざまな動機から考えます。親や知人がその仕事をしているのでよく知っている、あるいは仕事の内容が好きだから、という理由で選ぶこともあると思います。しかし、さらにその先の、楽しんで取り組むことができる仕事であったならば、好結果をうみ、長い人生が最高に幸せに満ちたものになるのではないのでしょうか。

最後に、今回のコロナ禍のように、これからの皆さんの人生には数多くの困難が待ち受けていることでしょうか。そのような時、その困難な状況を回避したり嫌がるのではなく、相対性理論で有名なアルベルト・アインシュタインの名言、「In the middle of difficulty, lies opportunity」、困難なうちにこそチャンスがある、とポジティブに捉え、何事も楽しんで取り組むことを心がけ、困難な状況を乗り切りたいと願っています。

みなさんの洋々たる前途を祝し、今後の一層の活躍を祈念し式辞とします。

令和四年三月一日 校長 常松 徹



投稿紹介

「QRコードによるアンケート」を実施したところ、たくさんの投稿が寄せられました。ご協力ありがとうございました。前回に引き続きお寄せ頂いた投稿を紹介いたします。

質問内容

Q 高校生に贈って喜ばれた誕生日プレゼントは何ですか？

投稿

- 1位 ワイヤレスイヤホン
 - 2位 現金・金券（図書カード、iTunesカード）
 - 3位 服・靴
- 1位がダントツ人気でした。

質問内容

Q コロナ禍でのオープンキャンパスはどのようにしていますか？

投稿

「可能な限り現地へ。無理ならネットでのオープンキャンパスへ。授業内容や周辺の事はパンフレットやBenesseなどでも良いしGoogleやSNSを使って調べる事も今は十分できる。」
他の投稿でもwebを活用されている方が多かったです。何もしていない、行ってない…という方もおられました。

質問内容

Q 大学入学後に向けた事を何かしていますか？
(例・家事の練習など)

投稿

結果は家事・料理の練習が圧倒的に多かったのですが、中には「ATMの利用の仕方の説明」「一人で住民票や郵便を出すようにしてみました」という投稿もありました。役所の複雑な書類やATM含めお金の事も一通り説明しておいた方がいいのかもしれませんが。これらの投稿をまとめている際、広報委員も自分達の学生時代に難しく感じた事や困った体験を鮮明に思い出しました。

- 広報委員の体験談①「母である私が学生時代の話。大学に入ってすぐに自分でカリキュラムを組んで提出なんて知らなかったから入学後に焦った。友人の一人は提出義務を知らず、一年生前期の単位を全て取れずに自主退学した。」
- 広報委員の体験談②「一年必須の選択一般教養科目は簡単に単位をくれる教科を先輩に聞き出して決めた。」

大学入学後は自力で情報収集をして友人や先輩がいるなら情報を共有していく事も大事です。こういった学生時代の体験をお子さんに話してみるのもお勧めします。

転任者ごあいさつ

今年度を終えるにあたり、紹介する教職員が異動することになりました。
生徒保護者の皆様に一言ずつ挨拶を申し上げます。

校長 常松 徹 先生

1984年4月、新採教員として北高に赴任して以来、合計3回、昭和・平成・令和の三元号の15年にわたって勤務できたことはとても幸せでした。

この三年間にいろいろな話をしました。「凡事徹底」「努力し続けることの大切さ」「失敗を恐れずチャレンジすること」「何事も楽しんで取り組むこと」etc。

最後に、私が教員の時、クラスやバスケットボール部の生徒に言い続けた言葉を送ります。

「努力の上に花が咲く」
皆さんの活躍を楽しみにしています。

教頭・英語 高倉 信明 先生

令和2年度は、いきなり4月15日から臨時休業に入り、5月25日からの分散登校を経て、6月1日に学校が全面的に再開されるまで1ヶ月半かかりました。この年は21Rと22Rの英語Eを担当することになっていました。22Rの初めての授業は臨時休業に入る前にできましたが、21Rの初めての授業は分散登校になってからのことでした。授業を担当する生徒に5月下旬まで会えないって、どうなんでしょうかね。

今思えば、北高での2年間は本当にコロナウイルスに翻弄されました。そのような中で昨年度担当した21R、22Rの皆さん、今年度担当した22R、23Rの皆さんとは楽しく授業をさせてもらったと私は思っています。授業を担当したのはこの4クラスだけでしたが、学校生活の中で多くの生徒と関わりを持つことができたのも北高での財産です。

短い間でしたが、また会える日を楽しみにしています。お互い前を向いて進んでいきましょう。ありがとうございました。

国語 服部 智香 先生

松江北高校には2年務めさせていただきました。その間本当にたくさんの笑顔と優しさに包まれ、充実した日々を過ごさせてもらいました。

16Rのみなさんへ

卒業まで見届けるつもりで、さあ、3年生！というときに離任となり、たいへん残念に思っています。私が一年間でみなさんに伝えてきたことは、真に楽しむとはどういうことか、どれくらい勉強を頑張っていかなければいけないのかということです。みなさんは立派に期待に応えてくれました。いよいよ進路実現の時です。何事にも最善を尽くし頑張ってください。

国語を担当させてもらったみなさんへ

現代文も古典も大好きと言ってもらえる科目ではないかもしれないけれど、それでも授業の時には、私の話にならずいてくれたり、隣の人と考えを交換し合ったり、いつでも真摯な態度で取り組んでくれました。国語の教材には人生の指針となるようなことがちりばめられています。知識を身につけるとともに人生のヒントを見つけてください。

登山部のみなさんへ。

最初は苦痛だった登山と一緒に登るうちにだんだんと好きになっていきました。初心者私のペースにあわせてくれたり、地図の見方を教えてくれたりと手のかかる顧問だったと思いますが、みなさんのおかげで楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

理科 村上美奈子 先生

2回目の北高勤務は…あつと言う間の5年間でした。

この5年間で、皆さんの高校生活が充実したものなる、お手伝いが出来たでしょうか？私にできたことはほんの少ししかなかったのに。それ以上のことを、北高生や教職員の皆さんから教えていただきました。ありがとうございました。

国語 澤田 直美 先生

松尾芭蕉の言葉に「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」という言葉があります。「不易」とは変わらないもの。そして「流行」とは変わるもの。いつまでも変わらない本質的なものを大切にしつつ、新たな変化を取り入れて進展していくという意味です。8年間の勤務の中で、まさに不易流行の母校の姿を見ることができました。私自身はここ数年、変化に置いていかれないよう必死で走り続けてきたように思います。息切れしそうな時、本当にたくさんの生徒に励まされ、たくさんの先生方に支えてもらいました。担任として4度、卒業生や補習科修了生を送り出し、残される寂しさも感じてきましたが、とうとう自分の番が来たようです。「不易流行」を胸に刻み、新たな一歩を踏み出そうと思います。8年間、大変ありがとうございました。

数学 足立 芳樹 先生

母校で3年間、大変お世話になりました。母校での勤務は、自分が切望しても、必ずしも実現できるものではないものの1つであると思っています。勤務が決まった時、思ったことは、光栄であると思う気持ち、喜ばしいと思う気持ち、気を引き締めて生徒の皆さんと共にやっていこうという気持ちでした。3年間勤務させていただきました。皆さんの方々に、襟を正して心から感謝いたします。ありがとうございました。

私は、現在60代の前半。私には、小さな夢があります。生徒の皆さんは、10代後半。皆さんの夢は何でしょうか。現在決まっていなくても、そのうち見つかりますので焦る必要はありません。若い頃、将来を見据えて、点と点を結びつけることは難しいことが多いです。目の前のことに全力を注いでいるうちに、夢の実現につながると信じてください。

数学 正村 修 先生

教員として採用されてから37年がたち、このたび退職することになりました。この間、数多くの生徒たちや先生方に助けられ、何とかここまでくることができました。最近では、かつての教え子と一緒に勤めることもあり、うれしい半面、年をとったなと思っていました。

松江北高校では意欲的に勉学に取り組む生徒たちに恵まれ、私自身もいろいろと学びを深めることができました。部活動は囲碁部の顧問でしたが、全国で活躍できるような生徒がいてくれたおかげで、この5年間で何回も全国大会に出かけることができました。囲碁は高校生のときに少しやっていたのですが、大会で対局しているのを見て再び興味が湧き、雑誌やTVを見るようになった結果、有段者になることができました。このような素晴らしい環境のもとで勤務できたことに感謝しています。

退職後は、健康に留意しながらもうしばらく今の仕事を続けようと思っています。

物理 田中 志宜 先生

3年間松江北高校に勤務する間、子どもが生まれ、1歳3ヶ月になりました。寝返りをするのも、ハイハイを始めたのも、一人で立てるようになったのも何もかも遅かったですが、そんなことを本人がわかるはずもありません。今は歩けるようになったことが嬉しいらしく、元気にあちこち歩き回っています。

周囲との比較や周囲からの期待は気になるものとは思いますが、昨日の自分や一年前の自分よりできることは間違いなく増えていると思います。3年間で間に合わなければ北高には卒業後にもう1年学ぶことができる生徒の皆さんにとっては恵まれた環境があります。高い志を持って北高に入学した皆さんが、勉強だけでなく部活動にも一生懸命取り組み、マイ（ベスト）ペースで生き生きと今後の高校生活を送ってくれることを願っています。

美術 宇田川沙紀 先生

2年間という短い間でしたが、お世話になりました。1・2年生には途中までしか関わらず申し訳ない気持ちと、なにより感謝の気持ちでいっぱいです。日々みなさんとの関わりの中で、北高生は素直で、しっかり物事を考えることができる人たちなのだと知りました。

北高に赴任した年からコロナが流行し始め、まあでも1年もすれば収まっているだろうなどと楽観に構えていたのですが、次の異動の際にもまだこの状況が続いているとは思いませんでした。こんな状況なので、ますます人はひとりでは生きていけず、繋がりが大事だと思います。ぜひ周りから応援され、困ったときに助けてもらえる人になって下さい。私はみなさんを応援しています。そして、私自身も応援される人を目指し、次の学校でも頑張ります。ありがとうございました。

日本史 大野 陽太 先生

7年間、お世話になりました。日本史の授業では、自分自身が面白いと思うことをただ垂れ流すような、前時代的な授業しかできませんでした。生徒の皆さん、ごめんなさい。でも、そんな授業に興味を持って聞いてくれる生徒が幾人かいて（いるように見えて）、うれしく思いながら授業していました。

また、7年間、ずっと弓道部に関わらせてもらいました。勝った試合のうれしさ以上に、負けた試合の悔しさをよく覚えています。弓道部の皆さんと一緒にインターハイを目指すことはできなくなりましたが、皆さんが全国大会の舞台上で輝くと信じています。

この7年間、楽しい事ばかりでした、などと言う気はありません。生きていれば、嫌なことや辛いことはたくさんあります。職場でも、家庭でもそうです。ですが、振り返って見た時に、トータルでどうだったのかと考えると、「まあ、いい7年間だったなあ」と今は思っています。

7年間通った赤山の地を去ることに、一抹の寂寥感を感じていますが、未知の場所にむけてわくわくしているのもまた事実です。皆さんも、元気で過ごしてください。

物理 福岡 和輝 先生

大学を卒業して初の勤務先が北高であったことに、不安と恐怖に襲われたことを今でも覚えています。「正直早く北高を出たい」というのが1年前の本音でした。しかし、それが今では「北高に残りたい」という気持ちに変わっているのには驚きです。多くの先生方、生徒の皆さんの暖かさが僕の気持ちを変えたと思っています。特に、僕の授業を受けてくれていた生徒の皆へ、一年間へたくそな僕の授業を受けてくれてありがとう！皆のおかげで僕は教員として一段階も二段階も進化することができました。そしてポータ部の皆へ、4月からはもうみんなに会えないのかと思うとすごく寂しいです。楽しい時間をありがとう！君たちと過ごした一年は僕の宝物です。

最後に、一年間未熟な僕を支えてくださった多くの先生方、職員の皆様、本当にありがとうございました。

化学 川上 真 先生

うれしいことや楽しいこと、時には辛いこと、教員のやりがいを感じた4年間でした。大学お卒業してすぐ、松江北高校で勤務することになり、生徒と間違われることのないように、あたらしいスーツを購入したことを懐かしく思います。皆さんのおかげで、少しは成長できた4年間でした。今後もお互い成長し続けていきたいですね。大概のことは、なんとかなります。だからこそ、お互いに沢山の事に挑戦していきましょう。

英語 三原 貫 先生

大学を卒業し、4年前北高に赴任してきました。大学の就職活動の時期、教員になるか民間企業で会社員になるか迷いに迷って、決めきれず「とりあえず両方受けてみて、結果で決めよう」と思い、教員採用試験と民間企業の就職試験を受けました。両方内定をもらい、どっちの道に進むかさらに悩むことになりました。しかし、紆余曲折あり今にいたります。この選択は正しかったのか、と思ったこともありましたが、北高の先生方や生徒の皆さんにいろんな場面で助けられ、先日卒業式で担任した生徒達を送り出すことができ、正しい選択をしたと思っています。出会うことのできたすべての人に感謝です。可能性に溢れている北高生の皆さん、不安なことは数えきれないかもしれませんが、自分の選択に自信を持ち、自分の選んだ道を良かったと言えるように高校生活を過ごしてください。きっとその選択は間違っていないです。4年間お世話になりました、ありがとうございました。